

和の光

宝塚市立西谷中学校



■阪神・淡路大震災を振り返る～中学生の手記を通してⅢ～

平成7年1月17日の午前5時46分、壊滅的な地震が神戸市をはじめとする阪神・淡路地区を襲いました。この地震で、かけがえのない命を奪われた人5501人、不明者2名（平成7年4月6日現在）、神戸市では154人の小・中学生が尊い命を奪われました。また、一瞬にして親やきょうだいを失った人もいます。私たちは決してこの災害を風化させてはならないと思います。当時の震災を経験した中学生の記録作文集から手記を紹介したいと思います。ぜひ、最後まで読んでいただき、「命の尊さ」「日常生活の有難さ」などについて考える機会にしてもらいたいと思います。

省略

■全校道徳「阪神・淡路大震災から学ぶ」

1月17日に行った全校道徳「阪神・淡路大震災から学ぶ」の感想を下記に紹介します。

【生徒の感想】

- ★阪神・淡路大震災を私は経験していないけれど、自分の親があの時あの場所に偶然いて、震災に巻き込まれていたら、今私はここにいないし、普通の生活ができていないと思うと、阪神・淡路大震災で亡くなった方の分も「今」を大切に生きようと思いました。（1年生女子）
- ★1月9日にあった避難訓練では、警報が鳴ってからすぐに机の下に隠れて、先生の指示に従って、行動ができました。また、阪神・淡路大震災の体験談を聞いて、自助・共助の大切さを学びました。冬の寒い中、パンと牛乳だけを食べるのはかなり苦しいと思います。今の生活ができていることは幸せなことだと思いました。震災が起こった時に備えて、防災カバン・棚の固定など準備しておこうと思いました。（3年生男子）
- ★私の父と祖父母の阪神・淡路大震災の体験談、今回の講演を聞いたことで、同じ地震でも場所や時間で違いがあるのだと感じました。久しぶりに避難訓練をしてみて、災害は怖いなと思いました。（3年生男子）
- ★地震の時には、急がずいつもの避難訓練のように落ち着いて行動することが大切だと思いました。そして、あまり見たことのない画像を見たり、話を聞かせてもらったりして、地震の怖さが分かりました。避難訓練は決してふざけてやるものではないと思いました。（2年生男子）
- ★大きな地震は、土砂崩れ、津波とか、家がつぶれたり人が亡くなったり、いいことは何一つないから、もう起きて欲しくないです。避難訓練はいざという時に備えて、とても大切だなと思いました。地震は起きて欲しくないけれど、もしもの時は学んだことを活かしたいです。（2年生女子）
- ★阪神・淡路大震災のことはよく聞いているし、怖いものだと思っていたけれど、今日の話聞いて、改めて地震の恐ろしさを感じました。私たちはまだ生まれていないけれど、当時の写真を見て被害の大きさを感じました。私と同じ年の子などが大変な思いをしたことを聞いて、今の私たちに命を繋いでくれたことを感謝します。（2年生女子）
- ★今日の授業で阪神・淡路大震災が起きた後の写真が印象に残っています。一番印象に残っているのは、阪神高速道路からバスが半分ぐらひはみ出しているものです。これから、私も家の中の地震対策や非常用の食べ物など、しっかりと確認したいと思います。（2年生女子）
- ★給食について考えたことが無かったので、震災時の給食について知ることができて良かったです。温かい給食って良いなと思いました。（2年生女子）
- ★30年前に起きた阪神・淡路大震災が、どれほど多くの人の心に大きな傷を残したのかがよく分かりました。そして、近年起きると言われている南海トラフ巨大地震に備えて、備蓄品の確認等をおこうと思います。日本という地震大国に住んでいる以上、いつ地震が起こるか分かりませんが、いつ起きてもいいように日頃から備えておきたいと思います。（2年生女子）
- ★地震を想定した避難訓練では、一人一人が考えて行動しなければいけないことを学びました。そして、図師先生と井崎先生の話聞いて、当たり前のことの有難さを感じました。（2年生男子）
- ★水道やガスなどのライフラインが止まって、ぜんぜん復興が進まなかったり建物が壊れたりして、生活が成り立たないと話していたことが印象に残りました。（2年生男子）

■新執行部の活動がスタートしました

生徒朝礼で、新執行部が 2025 年生徒会スローガン「唯一無二～みんなが主役我らが日本一～」を発表しました。このスローガンに対する生徒会執行部の思いを、生徒会長の Aさんから語ってもらいました。西谷中は、宝塚市で最も小さな中学校ですが、一人一人の生徒の個性を大切にしながら、みんなが主役となって活躍できる中学校を創り上げましょう。そして、日本一絆の深い中学校になることを期待しています。(1月17日)



2025年 生徒会スローガンの発表

■進路について考えよう～面接対策Ⅳ～

1月17日から面接練習が始まりました。3年生の東根先生と頼重先生が面接官になり、生徒が一人ずつ面接に臨んでいます。私もその会場で見学をさせていただきましたので、下記に気が付いたことを書いておきます。これからの参考にしてください。

【言葉づかい】

①質問に答える時は「はい」と返事しよう。

面接で回答する時には「えーと 私の名前は西谷太郎です」と答えるのは避けましょう。そのためには、**回答の前に一言「はい」を付ければ大丈夫**です。「はい」をつけることで、面接官に与える印象が良くなります。

・悪い例 「えーと 私の名前は西谷太郎です」

・良い例 **「はい、私の名前は西谷太郎です」**

②言葉は正しく使い分けよう。

・「自分は」ではなく「私は(わたしは)」

・「お父さん」「お母さん」ではなく「父」「母」

【回答内容】

①質問される可能性の高い内容 **(受験番号、受験する学科(コース)名、高校の志望理由、高校で**

頑張りたいこと、中学で頑張ったこと、高校卒業後の進路、将来の夢や目標)については必ず**回答する内容を考えておくこと。**

②面接の回答は丸暗記ではなく、**キーワードを考えておき、それを組み合わせて答えられるようにする。**

(例)「私は幼い頃から身近な物理現象に興味があり、将来は大学で物理学の研究をしたいと考えています。私はオープンスクールに参加して、●●高校は理科の実験設備が充実していること。大学の先生を招いて専門的な講義が聞けるとことを知りました。そこで、●●高校に進学し、理科の知識を深めたいと考えたからです。」

⇒(キーワード) 物理現象、物理学の研究、オープンスクール、専門的な講義、理科の知識

【姿勢など】

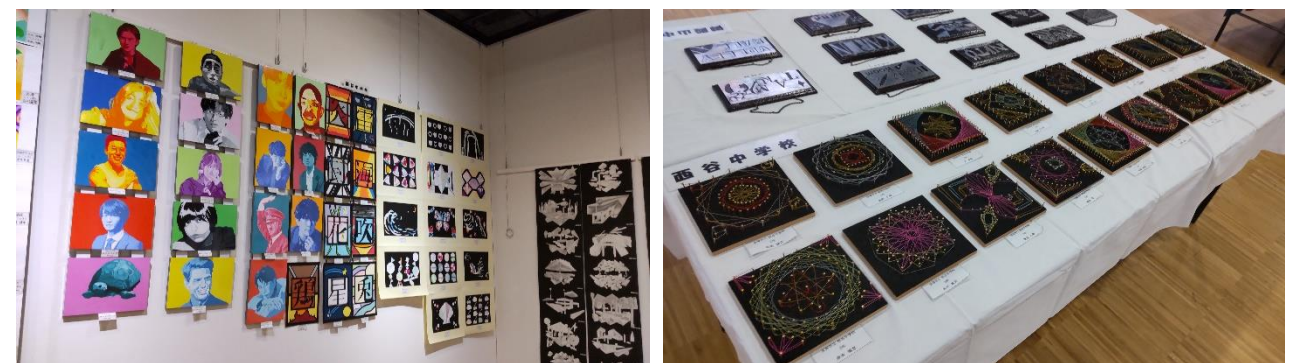
①椅子に座る時は背もたれにはもたれず、足先は揃え、手は膝の上で軽く握る。

②目線は面接官のネクタイあたりに合わせる。

③頭髪、爪、靴(上靴)、制服についてもしっかりと確認・準備しておく。

■TAKARAっ子造形作品展

宝塚市内の公立幼稚園、特別支援学校、小学校、中学校の図工・美術作品を展示した「TAKARAっ子造形作品展」が宝塚市立文化芸術センターで開催されています。本校の生徒の作品も展示されていますのでぜひご覧いただき、お子様に励ましのお声をかけていただけると嬉しく思います。



西谷中生の力作です